



代々木歯科コーナー

連載



—その10— 歯科医師 監物佐米子

認知症と食事の関係3

今回は認知症の進行と食事の関係についてお伝えします。アルツハイマー病は7段階に分けることが出来ます。

段階1：認知機能の障害なし

段階2：非常に軽度の認知機能の低下

段階3：軽度の認知機能の低下

この段階から初期の認知症と診断され始め、周囲の人が変化に気づき始める段階です。

食事の献立のバリエーションが減ったり、料理の手順を間違える事が起こり始めます。

段階4：中等度の認知機能の低下(軽度のアルツハイマー病)

この段階では、最近の出来事について忘れてしまったり、誰かを招いてもてなすことが困難になります。なので、だんだんと引っ込み思案になり社会性の低下が見られます。

段階5：やや重度の認知機能の低下(中等度のアルツハイマー病)

認知機能における障害が見られ、日常生活においてサポートが必要となります。この段階では、調理に手助けが必要となりますが、通常は食事およびトイレの使用に手助けを必要としません。

段階6：重度の認知機能の低下(やや重度のアルツハイマー病)

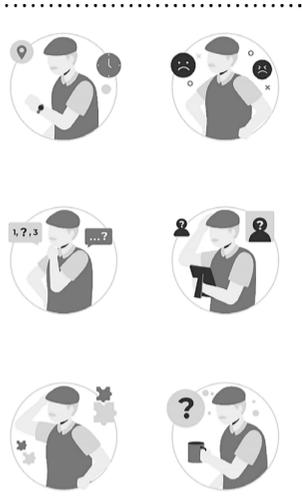
アルツハイマー病の最終段階で最終的には体を動かすことが出来なくなります。この段階では、ほぼすべての日常生活が必要で嚥下障害が見られます。

段階7：非常に重度な認知機能の低下(重度のアルツハイマー病)

要となります。この段階では、手助けなしでは、上手く食事が出来なくなり、生活サイクルが乱れます。

記憶障害が進行し、性格の大きな変化が見られたり、患者は通常の日常生活に大幅な手助けを必要とします。

要となります。この段階では、手助けなしでは、上手く食事が出来なくなり、生活サイクルが乱れます。



介護保険改定は負担増・給付減だらけ?

利用控えが生じ、重度化を招く懸念

し、ケアプラン有料化などが提案されています。部会の委員からも「利用控えが生じ、重度化を招く」「必要な介護が受けられない」などの批判や懸念が上がっています。厚労省が示している介護改定の論点を紹介します。

「軽度者」外し

要介護1、2を「軽度者」として訪問介護などを保険給付から外し、市区町村が運営する「総合事業」へ移行させます。すでに要支援1、2を総合事業へ移行させたこと

利用者負担

介護保険の利用者負担は原則1割です。これまでの改定で一定所得以上に2〜3割負担を導入してきました。厚労省は10

対象年齢

介護保険制度は40歳から保険料を納め、サービス利用は原則65歳からです。少子高齢化の影響で40〜64歳人口の減少と65

老健多居室

制度開始時、保険給付の対象だった特養ホームなどの入所者の部屋代(水光熱費など)を、在宅で介護保険サービスを利用している人との公平

ケアプラン

一人ひとりの状態に応じてケアマネジャーが作成する介護計画(ケアプラン)は現在利用者負担がありません。ケアプラン作成料が足かせとなっ

補足給付

特養ホームなどに入所者の食費・居住費を減額(利用)している低所得者に対する補足給付制度。昨年

(89) 冬の感染予防への健康管理

サプリメントに頼らない生活

薬剤師 藤竿伊知郎 (外苑企画商事)



競って機能性表示食品を販売し、腸内環境を整え免疫機能を維持すると宣伝しています。

最近、乳酸菌がインフルエンザや風邪症状の改善に役立つことを実証しようとする研究が活発になっていきます。機能性食品の届出情報から、その効果を見てみましょう。

健康な方が乳酸菌を摂取し、摂取しない場合と比較して免疫機能が維持されるかを調べた「文献6報のうち4報で、全身の自覚症状(全身倦怠感、寒気、熱っぽさ、総合的な臨床症状、体調または疲労)が対照群と比較してより軽度に維持されていた」「文献5報のうち全てで特定の部位の自覚症状(くしゃみ、鼻汁、鼻閉、のどの痛み、

今年3シーズンのインフルエンザ流行など、ウイルス感染への警戒感が高まりつつあります。いま、注目を集めている商品が「乳酸菌」です。大手食品メーカーが

成する介護計画(ケアプラン)は現在利用者負担がありません。ケアプラン作成料が足かせとなっ

は資産要件にこれまでの金融資産に加え、新たに不動産を要件にすることが論点に入りました。持

保険料負担

65歳以上の介護保険料は、制度開始時の月額2911円が昨年は6千円超と倍以上に高騰(全国平均)。2040年には9千円を突破する見通しです。そこで、「高所得者」の負担を引き上げ低

